令和６年度　自己評価結果公表

社会福祉法人若竹会
幼保連携型認定こども園あそびの森あきわ

１．　本園の教育目標

すこやかでたくましくすなおな子ども

・たくましくすくすく育つ健康な子ども
・創造性と感性豊かな子ども
・思いやりがあり、みんなで仲よく遊べる子ども
・自分のことは自分でできる子ども
・あいさつができ、ルールを守れる子ども

２．　本年度、重点的に取り組む目標・計画

◆行き届いた環境の中で情緒の安定を図り知・情・意・徳・体の調和のとれた全人教育をめざし人間形成をする。

◆「とことん遊ぶ」と「自分でできる」を保証することで、主体的で、対話的で、深い学びにつなげていく。

◆「ステキな保育者、子どもの憧れ」を意識することで、保育者自らが子どものなりたい自分につながるような存在を目指す。

◆「子どもの、今のキモチを考えてみる」ことで、子どもの気持ちに寄り添うと共に、愛着関係や信頼関係を築き、子どもにとっての「うれしい先生」を目指す。

★保育環境スケールを用いて考える保育へ

★デザインマップと実践・マップを用いた保育内容・環境の充実

あそびの目標：とことん遊ぶ

◎各々の年齢の発達に合わせた遊び・遊び方　◎集中して遊ぶ環境づくり

生活の目標：自分でできる

◎言葉かけ　◎心待ち

３．　評価項目の達成及び取り組み状況

評　価　項　目	取 組 み 状 況
保育理念 保護者支援	認定こども園教育・保育要領や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。
	自分の働いているこども園の理念や目標を意識して保育している。

組織性の理解	養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。
	こども園以外の機関との連携を心掛けている。
	子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。
	困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。
	自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。
	誰かがやらなくてはいけない大変な仕事を、進んで引き受けている。
子どもの姿を捉えた準備	新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。
	子どもの発達の特性や過程、連続性について学ぼうとしている。
	子どもが安全、快適に過ごせる空間を整えている。
	子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。
	一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている。
	絵本などの児童文化財について、しっかりと準備をしている。
	子どもの心情や意欲を考えて、遊びの共有や継続の工夫をしている。
	日々の保育の中で、一人ひとりの育ちに合わせて、デザインマップやエマージェントを作成している。
意識的な実践	日々、自分に課題を持って保育に取り組んでいる。
	子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。
	毎日、一人ひとりと挨拶を交わし、視診をしている。
	子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。
	子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。
	一人ひとりの心の動きを考えながら、言動するように心がけている。
	自然環境を感じられる工夫をしている。
	基本的生活習慣については、一人ひとりの育ちに留意して取り組んでいる。
	遊びを通してどのような経験、育ちをして欲しいか考えている。
客観的な振り返り	一日の保育を振り返り、自分の言動を省察するように努めている。
	保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。
	他者が見ても理解しやすいように記録している。
	子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。
	保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。
	子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。
	謙虚な気持ちで、他者からの保育に関する意見を聞くことができている。
	尊敬の気持ちを持って、他者の保育に対する自分の思いを伝えている。

項目別の集計

評価項目	取 組 み 状 況	8月		１２月		3月		平均	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
理 育 保	認定こども園教育・保育要領や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。	83	17	82	18	85	15	84	16

		自分の働いているこども園の理念や目標を意識して保育している。	97	3	93	7	94	6	95	5
		養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。	67	33	69	31	64	36	66	34
		こども園以外の機関との連携を心掛けている。	42	58	43	57	45	55	43	57
		子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。	89	11	81	19	88	12	86	14
		困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。	97	3	86	14	91	9	91	9
		自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。	100	0	99	1	100	0	100	0
		誰かがやらなくてはいけない大変な仕事を、進んで引き受けている。	83	17	78	22	82	18	81	19
子どもの発達援助	子どもの姿を捉えた準備	新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。	53	47	65	35	61	39	59	41
		子どもの発達の特性や過程、連続性について学ぼうとしている。	89	11	85	15	91	9	88	12
		子どもが安全、快適に過ごせる空間を整えている。	78	22	77	23	82	18	79	21
		子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。	72	28	62	38	76	24	70	30
		一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている。	61	39	58	42	64	36	61	39
		絵本などの児童文化財について、しっかりと準備をしている。	50	50	54	46	52	48	52	48
		子どもの心情や意欲を考えて、遊びの共有や継続の工夫をしている。	69	31	67	33	76	24	71	29
		日々の保育の中で、一人ひとりの育ちに合わせて、デザインマップやエマージェントを作成している。	56	44	58	42	61	39	58	42
	意識的な実践	日々、自分に課題を持って保育に取り組んでいる。	92	8	80	20	76	24	82	18
		子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。	56	44	61	39	55	45	57	43
		毎日、一人ひとりと挨拶を交わし、視診をしている。	83	17	79	21	79	21	80	20
		子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。	89	11	88	12	85	15	87	13
		一人ひとりの心の動きを考えながら、言動するように心がけている。	94	6	86	14	88	12	89	11
		自然環境を感じられる工夫をしている。	44	56	49	51	58	42	50	50
		基本的生活習慣については、一人ひとりの育ちに留意して取り組んでいる。	75	25	79	21	82	18	78	22
		遊びを通してどのような経験、育ちをして欲しいか考えている。	67	33	79	21	76	24	74	26
	客観的な振り返り	一日の保育を振り返り、自分の言動を省察するように努めている。	81	19	78	22	85	15	81	19
		保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。	39	61	46	54	36	64	40	60
		他者が見ても理解しやすいように記録している。	44	56	47	53	61	39	51	49
		子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。	53	47	62	38	55	45	56	44
		保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。	81	19	78	22	85	15	81	19
		子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。	64	36	49	51	61	39	58	42

		謙虚な気持ちで、他者からの保育に関する意見を聞くことができている。	97	3	90	10	88	12	92	8
		尊敬の気持ちを持って、他者の保育に対する自分の思いを伝えている。	92	8	81	19	82	18	85	15

4．　学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価は、保育の質の向上を考える上で保育現場には必要不可欠なものと考えてきているが、昨今の不適切な保育を巡る社会的状況を考慮すると、自己評価の内容の検討も必要なことであるように思われる。

そこで今年度は、これまでの年三回の自己評価と同時に、追加で保育に関する自己評価チェックリストを取り入れることにより、保育者として一人ひとりが保育を振り返り、見直す機会を設けています。

ここ何年か評価を重ねることで、回答の傾向が明確になってきたようにも見えますが、令和５年度より保育マネジメントをベースとした地域一番店プロジェクトを実施し本格的に活動しはじめたことにより、これまで以上に子ども主体の保育に向かってチームで努力している姿も伺うことができます。

まず注目するのは、「12. 子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。」及び「30.子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。」が、昨年度と比べ、大幅にポイント上昇している点です。この２点は、当園が実施する「子どもの興味・関心・意欲から拡がる保育」を進めていくために必要な、子どもの姿を理解しとらえて計画に取り入れ、環境を整えていくという保育マネジメントの内容であり、この２点に対してプラスに自己評価している点からすると、日頃よりより良い保育を目指して努力している様子がうかがえます。

一方、「8. 新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。」、「26. 保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。」、「28. 子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。」が減少していた。特に、「26. 保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。」が全体としても最も低調で、保育者たちが自己評価または自己の振り返りに対して不十分な評価または厳しい評価をしていることになる。子ども理解、環境構成など日々の保育に必要なことに注目している分、自己の振り返りに割かれる時間が不足していると思われる。

総じて、自己評価の各項目はプラス傾向にあり、大項目の「保育理念等」の項目は昨年に比べても全体としても上昇していることからも、令和６年度の当園は、保育者の意欲が高い状態であったと思われる。一方、「客観的な振り返り」項目は低調な状況であるが、「29.保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。」は高い評価をつけているので、保育において振り返りが単純に不十分なのではなく、保育の質を意識した評価がなされているのかもしれません。今後も振り返りと保育をつなげる習慣を持てるように、「保育の質」につながるようなチームで解決する仕組みを進めていくようにしていきたい。

5．　今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
保育理念	保育理念・保護者支援・組織理解などは、全体として上下していること項目が現れてい

保護者支援 組織性の理解	る。コロナ感染症に対する行動制限が解除されたことにより、コロナ前に行われていたような、外部機関との連携、地域との関わりを展開していく必要がある。地域資源を活用するといった保育内容については、経験の少ない職員もいるので、その学びの意味や目的を確認しながら理解を深めていく。
客観的な 振り返り	環境構成の意味を考えると共に、環境を日々整えるためのミーティング時間を取るようになってきている。雑談的なコミュニケーションを重ねることで、保育に関する情報共有を増やしていくことが寄り効果的と考える。また、職員配置を増やしていく中で、ノーコンタクトタイム有効利用や職員間の連携につなげていく。
	保育の質に直接つながる「振り返り」の時間の確保は、引き続きノーコンタクトタイムの活用を検討していく必要がある環境構成同様に一人で考えるのではなく、複数の人間の考えを持ち寄って行う必要があり、チームで考える・振り返る習慣につなげていく。

６．　学校関係者の評価

【令和７年２月８日実施】

保護者代表者に職員同様、評価項目の取組状況について評価していただき、別途アンケート調査その結果をどのように感じられるかを聴取した。

およその回答は、自己評価チェックのシートで行っていた保育に関する方針について良好な回答をいただいていた。

日々の保育については、今年も子どもの興味関心に沿った活動をしていることに対する評価が大きく、子どもの「やってみたい」を大切にした経験的活動を今後も続けていってもらいたいという要望が多かった。子ども中心の主体的・自主的な活動や日々のドキュメンテーションやポートフォリオについても高評価が見られた。

一方、保育についてはプールの実施に関する要望があがっていたが、夏の短時間にしか実施できず、学校のプールのように泳ぐための大きさのないプールであることから、平成３０年から実施をとりやめ、いつでも遊べる水遊び、泥遊びを一年中実施できるように保育を工夫していくことにしました。当園での方針をご理解いただけるように発信していくようにしたいと思います。

また、当園園舎は新築してから満２０年が経ち老朽化していく中で、園舎の修繕に関する要望が少しずつ上がってきているので、子どものたちの安全安心な生活の場・遊びの場を確保するために努めて参りたいと思います。

今後も、子ども主体・子ども中心の考え方が保護者に浸透し、選ばれる認定こども園を目指して、情報提供・情報発信を重ねて、よりよいこども園、保育の充実を図っていきたいと考えています。